

第4次向日市総合計画とは

総合計画は、これからの向日市をどんなまちにしていけるかを示す、まちづくりの指針です。市民憲章の精神を基礎として、これまで積み上げてきた成果を生かしながら、市民、ボランティア、企業、行政などあらゆる主体が協力し合ってまちづくりを進めていきます。

計画期間●2001(平成13)年度を初年度とし、2010(平成22)年度までの10か年を計画期間とします。

総合計画のポイント

向日市の将来像

7.67むこう

●将来像の「7.67むこう」とは… 市域面積7.67平方キロメートルと西日本で最も小さな「市」としての利点を生かしたまちづくりをしようということを表しています。

①主要課題

少子・高齢化、国際化、情報化への対応をはじめ、本市が誇る豊かな歴史文化や自然環境、市域面積が狭いという特長を生かした質の高いふるさとづくりなど、魅力ある都市イメージを市民参加で高めていく必要があります。また、男女共同参画の環境づくりや環境保全意識の高まりへの対応、さらには、懸案となっているJR向日町駅前等の整備や雨水浸水被害の早期解消に向け計画的に整備を促進していく必要があります。

②基本方針

本市が抱える様々な課題や社会の変化を十分踏まえて、次の5つの基本方針をもって21世紀初頭のまちづくりを進めていこうと考えています。

- パートナーシップでまちをつくる
- 人権が尊重されるまちをつくる
- 環境に配慮したまちをつくる
- 個性がいきづくまちをつくる
- 広域的な連携でまちをつくる

③人口の目標

総合計画の目標年次である2010年の人口フレームを55,000人と設定しています。これは、全国的な人口の減少傾向を踏まえた上、既存市街地の居住環境の向上や一部土地利用の見直しを考慮し、抑制型の人口目標となっています。

本市は極めてコンパクトな市で、また、市域の大部分が既に市街化しています。このため、現状の土地利用を基本としながら、一部農地の都市的利用も視野に入れて、秩序ある土地利用に努めます。

総合計画策定の流れ

平成10年度から、市民アンケートをはじめ、市内小学生5・6年生を対象に作文の募集、人口の推計やこれまで積み上げてきた成果などの基礎調査を行いました。

平成11年11月から、向日市総合計画審議会(学識経験者、公募市民などで構成)を開催し、市長の諮問を受けたまちづくり計画の審議が進められてきました。

この間、公募委員が中心になってシンポジウムの企画運営、小学生や審議会委員による地域の魅力と課題の発見などユニークな取り組みも行われ、今回の素案として取りまとめられたものです。

市では、今後、総合計画審議会から答申をいただいた後に、「第4次向日市総合計画基本構想(案)」を市議会で審議していただく予定です。

21世紀のまちづくり計画(素案)と私たちの未来

向日市の将来像とまちづくりの方向性を示す第4次向日市総合計画の審議が最終段階に入り、8月には総合計画審議会からの答申をいただく予定です。現時点での総合計画素案のあらましをお知らせします。

都市の骨格(素案)

都市軸

本市の玄関口であるJR向日町駅と阪急東向日駅の両駅をつなぎ、市役所・向日町競輪場周辺を経て、向日町中央商店街に至る沿道地域は本市最大の商業業務施設の集積地となっています。

この沿道及び周辺地域を、本市の骨格を形成する「都市軸」と位置付け、駅周辺整備や道路整備の促進により、その機能強化と利便性・快適性の向上を図ります。また、JR向日町駅と市北部の「新市街地ゾーン」を連携する軸もこの都市軸を形成する地域と位置付け、その連携を強めていきます。

自然・歴史・文化軸

西ノ岡丘陵を南北に縦断し、市役所等を経て阪急西向日駅周辺からJR向日町駅に至る地域は、本市の個性ある資源をつなぐ重要な役割を担っています。

この沿道及び周辺地域を「自然・歴史・文化軸」に位置付け、資源の魅力の向上や情報発信力の強化により、市民生活に潤いをもたらすネットワークの形成を図ります。

住居地ゾーン

既存の住宅地を中心とする住居地ゾーンは、良質な住宅地の環境を維持・保全するとともに、狭小・密集住宅地の整備を進め、安全・快適・便利な環境の形成を進めます。

田園ゾーン

都市近郊農業の振興を図るとともに、環境・防災面における都市の貴重なオープンスペースとして保全する一方、周辺住宅地や農地と調和した都市的利用の方向についても検討していきます。

緑地ゾーン

西ノ岡丘陵一帯を中心とする緑地ゾーンは、竹林等の自然環境の保全に努めるとともに、自然・歴史資源を生かした市民レクリエーションの場としての活用を図ります。

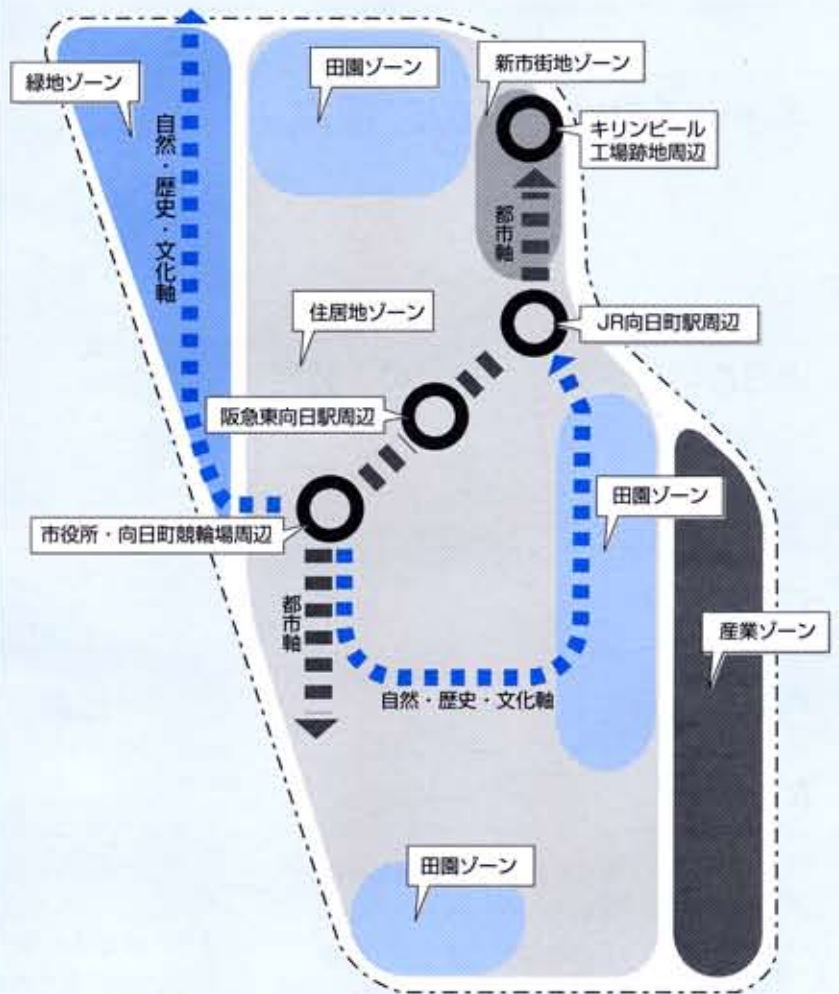
産業ゾーン

国道171号沿道及び南部において工業が立地する地域を産業ゾーンと位置付け、周辺の住環境と調和した工業地域としての環境を整備します。

また、高い交通利便性や京都・大阪都市圏への接近性を生かし、生産、流通、サービスなど幅広い分野にわたる都市型産業を誘導していきます。

新市街地ゾーン

市域北部のキリンビール京都工場跡地を中心とする地域においては、周辺都市施設の機能を生かした新たな市街地を形成していきます。



お問い合わせ 健康都市推進室(内線276)